研究者：園田　央互

（所属：長崎大学大学院医歯薬総合研究科社会医療科学講座口腔保健学分野）

研究題目：職域中年男性における口腔内所見と全身健康状態の関連（海上自衛隊員における早食いと肥満との関連性について）

目　的：

近年，多くの疫学研究において口腔と様々な生活習慣病との関連が報告されており，例えば歯周疾患が 2 型糖尿病や動脈硬化に悪影響を及ぼしていることや，早食いが肥満と関連していることなどが指摘されている。海上自衛隊という特殊な職場環境にある職域においても歯科疾患と全身健康状態との関連が明らかになれば，歯科的介入が生活習慣病の改善につながる可能性があり，医科と歯科の連携により，特定の職域における健康増進に寄与できると考えられる。本研究では海上自衛隊員において，早食いと肥満が関連しているかどうかを明らかにすることを目的とした。

対象および方法：

海上自衛隊佐世保地区に勤務する年度末年齢 35 歳以上の男性海上自衛隊員のうち，平成 23 年度に歯科健診を受けた 892 名（平均年齢 43.9 ± 5.5 歳）を対象とした。健診時に質問紙調査で主観的な食事の速さについて「とても速い，速い，普通，遅い，とても遅い」の 5 段階で回答してもらい，「とても速い」「速い」と回答したものを早食いの者，「ふつう」「遅い」「とても遅い」と回答したものを早食いでない者と定義した。BMI（Body Mass Index，kg／m^2）が 25 以上の者を肥満とし，対象者を 34～39 歳，40～44 歳，45～49 歳，50～62 歳の 4 群に分け，それぞれの群で食事の速さと肥満との関連性について分析した。

結果および考察：

早食いの者では BMI の平均値が 26.1 ± 3.7，早食いでない者では 24.8 ± 3.7 であり，早食いの者では BMI の平均値が有意に高かった（P ＜ 0.001）。更に年齢で層別化したところ，全ての年齢層で早食いの者は早食いでない者に比べ BMI の平均値が有意に高かった（表 1）。BMI25 以上の肥満者の割合を早食いの者と早食いでない者について，各年齢層で比較しカイ二乗検定を行なったところ，45～49 歳以外の全ての群において早食いの群では早食いでない群に比べ肥満者

表 1　　各年齢層における早食いの者と早食いでない者の BMI（kg／m^2，平均値 ± sd）

年齢	早食い	早食いでない	P 値
34～39 歳（n = 231）	26.1 ± 3.6	24.4 ± 3.7	＜ 0.001
40～44 歳（n = 265）	26.3 ± 4.0	24.9 ± 3.9	＜ 0.01
45～49 歳（n = 216）	26.1 ± 3.7	25.0 ± 3.7	0.04
50～62 歳（n = 180）	26.0 ± 3.7	24.7 ± 3.7	0.01

表 2　各年齢層における BMI25 以上の者の割合（%）

年齢	早食い	早食いでない	P 値
34～39 歳（n = 231）	29.4%	16.9%	＜ 0.01
40～44 歳（n = 265）	27.6%	20.4%	＜ 0.01
45～49 歳（n = 216）	28.7%	20.8%	0.13
50～62 歳（n = 180）	30.0%	19.4%	0.02

の割合が有意に多かった（表 2）。これらのことから中年期男性の海上自衛隊員において，早食いと肥満が関連していることが示された。自衛隊員といえども平時においては，よく噛んでゆっくり食事をとる習慣が生活習慣病の予防や隊員の健康に繋がる可能性があることが示唆された。

成果発表：（予定を含めて口頭発表，学術雑誌など）

第 61 回　日本口腔衛生学会・総会　ポスター発表予定